

# 第58回全国手話通訳問題研究集会～サマーフォーラム in きょうと～ ～平和と人権はいのち 仲間と共に京都から～

期 間 2025年8月8日(金)～10日(日)

会 場 京都テルサ ー京都府民総合交流プラザー



主 催: 一般財団法人全日本ろうあ連盟／一般社団法人全国手話通訳問題研究会  
主 管: 一般社団法人京都府聴覚障害者協会／京都手話通訳問題研究会  
後援(予定): 内閣府／厚生労働省／文部科学省／京都府／京都府教育委員会／京都府議会  
／京都市／京都市教育委員会／京都府市長会／京都府町村会  
／社会福祉法人京都府社会福祉協議会／社会福祉法人京都市社会福祉協議会  
／京都新聞／京都新聞社会福祉事業団／KBS 京都  
協 力: 京都府手話サークル連絡会／社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会

<事務局>「第58回全国手話通訳問題研究集会～サマーフォーラム in きょうと～」実行委員会  
〒610-0121 京都府城陽市寺田林ノ口11番64 京都府聴覚言語障害センター気付  
TEL 080-2545-2717 FAX 0774-55-7708  
E-mail summerkyoto2025@kyoto-chogen.or.jp  
ホームページ [https://deaf-kyoto.or.jp/?page\\_id=568](https://deaf-kyoto.or.jp/?page_id=568)



「人権の世紀」と呼ばれる 21 世紀に入り、四半世紀が経過したにも関わらず、世界中すべての人々の人権が保障される社会は未だに実現していません。ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの武力衝突をはじめ、各地で子どもを含む多くの人々が犠牲になり、侵攻の激化は核兵器の使用をほのめかす事態に陥っています。広島と長崎に原爆が投下され 80 年を迎える今、改めて「平和」や「人権」の尊さを噛みしめ、次の世代に引き継いでいくことが強く求められています。一方、「核兵器禁止条約」の採択、日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)のノーベル平和賞受賞など、たゆまぬ努力の結果、恒久的な平和を望む声が少しずつ形に表れていることも事実です。今後も、「平和」や「人権」を追求することを確認しましょう。

2024 年 7 月、最高裁判所大法廷は旧優生保護法は憲法違反とする初めての判断を示し、国の責任は極めて重大だと賠償を命じる判決が確定しました。そして、不法行為から 20 年が経過すると賠償を求める権利を失う「除斥期間」についても、著しく正義・公平の理念に反し容認できないとして、国の賠償責任を免れることは認めませんでした。また、大阪府立生野聴覚支援学校児童事故裁判では、逸失利益(生涯の収入見込額)の減額はなく、全労働者の平均賃金の 100%を基準とするという、一審の大阪地裁判決からの逆転勝訴が確定しました。これら 2 つの司法判断は、長年にわたり人権保障を追求してきた私たちにとって大きな励みになると共に、今後も決して諦めることなく、多くの仲間と共にまい進することを改めて約束することにつなげましょう。

2025 年の 11 月には、記念すべき 100 周年を迎える「東京 2025 デフリンピック」が日本で初めて開催されるため、全日本ろうあ連盟内に、運営委員会を設置し、着々と準備が進められています。世界各国のデフアスリートの活躍が期待されています。併せて、多くの国民が注目する中、手話施策推進法の国会提出の動きがあり、手話言語に対する社会の理解増進や手話のさらなる普及が一層進むことで、私たちが長年描いてきた、手話を自由に使える社会の実現にまた一歩近付くこととなります。

2024 年、全国手話通訳問題研究会(全通研)は創立 50 周年を迎え、次の時代を切り拓くために、新たな一歩を踏み出した今年、京都でサマーフォーラムを開催します。京都はろう教育発祥の地であり、日本で初めての手話サークル誕生の地でもあるなど、長年の歴史の中で切っても切り離せない地域です。そんな京都で、暑い中、熱い議論を繰り広げ、全国各地の仲間と共に、大いに盛り上がっていきましょう。

【日程】

■第 1 日目 2025年8月8日(金)

|       |                              |       |               |          |       |       |
|-------|------------------------------|-------|---------------|----------|-------|-------|
| 11:00 | 13:00                        | 13:30 | 17:15         | 18:00    | 18:30 | 20:30 |
|       | 講座/分科会<br>司会者/共同研究者<br>打ち合わせ | 受付    | 開会式／特別講演／記念講演 | 移動<br>受付 |       | 交流会   |

■第 2 日目 2025年8月9日(土)

|      |               |       |               |       |               |       |       |       |
|------|---------------|-------|---------------|-------|---------------|-------|-------|-------|
| 9:00 | 9:30          | 11:30 | 12:30         | 14:30 | 14:45         | 16:45 | 17:00 | 19:00 |
| 受付   | 講座Ⅰ<br>分科会①～⑥ | 昼食    | 講座Ⅱ<br>分科会①～⑥ | 休憩    | 講座Ⅲ<br>分科会①～⑥ | 移動    |       | 諸会議   |

■第 3 日目 2025年8月10日(日)

|      |               |       |       |             |
|------|---------------|-------|-------|-------------|
| 8:30 | 9:00          | 11:00 | 11:30 | 12:30       |
| 受付   | 講座Ⅳ<br>分科会①～⑥ | 移動    |       | 閉会式<br>引継ぎ式 |

【開 会 式】 日 時:2025年8月8日(金)13:30~15:00  
会 場:京都テルサ(京都市南区東九条下殿田町70)

【特 別 講 演】 日 時:2025年8月8日(金)15:00~15:20  
会 場:京都テルサ(京都市南区東九条下殿田町70)

【記 念 講 演】 日 時:2025年8月8日(金)15:30~17:15  
会 場:京都テルサ(京都市南区東九条下殿田町70)

## テーマ:マンガと偏見の複雑な関係 ～本当に「マンガはわかりやすい」のか～

講 師: <sup>よしむら</sup>吉村 <sup>かずま</sup>和真 氏( <sup>せいか</sup>京都精華大学マンガ学部教授、  
学校法人京都精華大学 理事長)



### <プロフィール>

1971年福岡県生まれ。日本学術振興会特別研究員を経て、2001年に同大学入職。専門は思想史・マンガ研究。「マンガを読む」ことが日常になるまでの歴史と、それが「マンガ読者」の思想や価値観、感性に与える影響をテーマとして、主に明治時代から現在にいたるマンガを素材に研究を続けている。

2001年の日本マンガ学会設立、06年の京都国際マンガミュージアム開館を担当するなど、マンガ研究のための環境整備に取り組む。近年は、省庁の各種委員や高知県、秋田県横手市、鳥取県北栄町、熊本県といった自治体のアドバイザー、鳥取県、淡路市が主催するマンガコンテストの審査員などを歴任し、これまで蓄積してきた研究成果の社会への還元を進めている。

主な著作に『「はだしのゲン」がいた風景—マンガ・戦争・記憶』(06年、編著)、『差別と向き合うマンガたち』(07年、共著)、『マンガの教科書—マンガの歴史がわかる60話』(編著、08年)、『障害のある人たちに向けたLLマンガへの招待—はたして「マンガはわかりやすい」のか』(共著、18年)、『マンガノミカター創作者と研究者による新たなアプローチ』(共著、21年)などがある。

### <講演内容>

マンガは私たちの身近な文化ですが、きこえない人の中には「マンガで日本語の使い方を覚えた」という人もいますし、きこえない人が登場する作品も複数あります。講師には、日本初の総合的なマンガ博物館・図書館である「京都国際マンガミュージアム」開館を担当し、マンガ研究を続けている立場から、マンガが読者に、社会に、どのような影響を与えてきたのか、また差別や障害者をどのように描いてきたのかを語っていただきます。それらを知ることによって、きこえない人や手話通訳の問題について、私たちが社会に理解を求め、働きかけていくためのヒントを見出します。

【交 流 会】 日 時:2025 年8月8日(金)18:30～20:30  
 会 場:ホテルグランヴィア京都  
 参加費:11,000円  
 住 所:京都市下京区烏丸通塩小路下ル JR 京都駅中央口

- ご注意ください！ -

8月8日(金)夜は、「びわ湖大花火大会」が開催される関係で、京都駅及び周辺の飲食店は大変混雑いたします。実行委員会一同、心を込めておもてなしさせていただきますので、ぜひ交流会にご参加ください。

【講座／分科会】 日 時:2025 年 8月 9日(土)9:30～16:45  
 8月10日(日)9:00～11:00  
 会 場:京都テルサ  
 住 所:京都市南区東九条下殿田町70

- ご注意ください！ -

会場の京都テルサ周辺は飲食店が少ないことと、京都駅周辺はインバウンドによる観光客で大変混雑しているため、8月9日(土)は弁当のお申し込みをされることをお勧めします。  
 一食 1,800 円(お茶付き)でご用意します。

【こども企画】 日 時:2025 年 8 月8日(金)～8 月10日(日)  
 会 場:京都国際マンガミュージアム  
 アクトパル宇治

【日程】

1日目 2025年8月8日(金)

| 13:00 | 13:30  | 14:00                    | 16:30  | 17:45      | 終日       |
|-------|--------|--------------------------|--------|------------|----------|
| 受付集合  | 公共交通機関 | 京都国際マンガミュージアムで遊ぶ、読む、みる体験 | 公共交通機関 | アクトパル宇治 宿泊 | 夕食、入浴、交流 |

2日目 2025年8月9日(土)

| 9:00          | 10:00   | 11:00     | 13:00 | 18:00 | 19:00 | 20:30 |
|---------------|---------|-----------|-------|-------|-------|-------|
| アクトパル宇治で過ごします |         |           |       |       |       |       |
| 食堂で朝食         | 竹とんぼづくり | 昼食作り & 食事 | 野外活動  | 食堂で夕食 | ゲーム交流 | 天体観測  |

3日目 2025年8月10日(日)

| 9:00  | 10:30  | 11:30              | 12:00 |
|-------|--------|--------------------|-------|
| 食堂で朝食 | 公共交通機関 | 京都テルサ 閉会式にて子ども企画発表 | 解散    |

【閉 会 式】 日 時:2025 年 8 月10日(日)11:30～12:30  
 会 場:京都テルサ  
 住 所:京都市南区東九条下殿田町70

# 【講座】

## A 講座＜体験学習＞ 2コースに分かれて体験学習を行います

ろう教育発祥の地である京都で、ゆかりある場所を訪れ、ろう教育史について学びます。

※8月10日(日)は2コース合同の講義形式で実施します。

※12ページの集会参加申込を事前にご確認のうえお申し込みください。

### ■コースの概要

#### ①北コース

京都府北部地域を巡ります。いこいの村聴覚言語障害センターは、ろうあ運動により建設された全国初のろう重複障害施設で、北部地域の拠点として幅広い事業を展開しています。センター見学の後は、舞鶴港とれとれセンター(道の駅)で買い物を楽しんでください。

#### ②南コース

京都府南部地域を巡ります。全国の手話の拠点施設として、手話に関する養成・研修、研究、試験等を実施する全国手話研修センター訪問と、全国初の聾学校(当時の盲啞院)である京都府立聾学校を見学します。全国手話研修センターボランティアグループ「手話メイト」が、観光名所である嵯峨・嵐山の渡月橋や天龍寺を手話でご案内します。

### ■旅行代金

① 北コース : お一人 6,000 円(税込) (観光バスで移動します)

② 南コース : お一人 4,000 円(税込) (公共交通機関で移動します)

### ■定員

① 北コース : 40人

② 南コース : 25人

①②とも定員を超えた場合は同行希望者、支部単位など一切考慮せず完全な抽選で行います。

### ■旅行代金に含まれるもの

交通費、有料道路代、昼食代、施設の入場料など

|                         |                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>I<br/>II<br/>III</p> | <p><b>8月9日(土)</b></p> <p>① 北コース 8:15集合<br/>京都テルサ → いこいの村聴覚言語障害センター → 舞鶴港とれとれセンター<br/>→ 京都テルサ 17:15頃着予定</p> <p>② 南コース 8:45集合<br/>京都駅 → 全国手話研修センター → 渡月橋、天龍寺 → 京都府立聾学校<br/>→ 京都駅 17:10頃着予定</p>                                          |
| <p>IV</p>               | <p><b>8月10日(日)</b></p> <p>北コース・南コース 合同講義 9:00～11:00<br/>会場:京都テルサ</p> <p>「京都ろう教育史跡巡り」 講師 <small>もちだ たかひこ</small> 持田 隆彦氏(京都手話通訳問題研究会 会長)</p> <p>「京都の聴覚障害者運動と聴覚言語障害センター」</p> <p>講師 <small>いまにし かずひろ</small> 今西 和弘氏(京都府聴覚言語障害センター 所長)</p> |

|                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>B 講座＜入門＞</b><br>ろうあ運動や手話活動の歴史を改めて学びます。また手話の魅力について、ろう者の語りから学び合います。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| I                                                                    | <p>「真の共生社会をめざして ～さまざまな課題に立ち向かうろうあ運動～」</p> <p>講師 <sup>いしはし だいご</sup> 石橋 大吾 氏（一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事長）</p> <p>全日本ろうあ連盟が誕生して約80年、さまざまな法整備が進み、手話に対する社会的な理解は広まりましたが、真の共生社会は実現したでしょうか。優生思想や差別の深い根はまだ残されています。一方で、2025 年は日本で「東京 2025 デフリンピック」の開催や、手話施策推進法の成立も目前に迫るなど、明るい話題もあります。これまでの運動と、未来を見据え、学びを深めます。</p>                                                                                                                                                                     |
| II                                                                   | <p>「50年の絆その先へ 歩み続ける全通研」</p> <p>講師 <sup>みやざわ のりこ</sup> 宮澤 典子 氏（一般社団法人全国手話通訳問題研究会 副会長）</p> <p>2024年、全通研は創立50周年を迎え、新たな一步を踏み出しました。これまで、全通研が大切に育んできた全国の仲間との絆は、新たな手話通訳制度の創設や国民の理解へと形を変え、社会に浸透してきました。今日までの歩みを学び、未来の全通研を参加者と共に考え、さらなる飛躍を目指します。</p>                                                                                                                                                                                                                          |
| III                                                                  | <p>「 京都の自治体手話通訳者の仕事から学ぶ ～パネルディスカッション～ 」</p> <p><sup>そのだ ひ で お まいづる し や ぎ かつひ こ む こう し おぎのせいこ あやべし いわたにせいじ む こう し</sup><br/> 蘭田日出雄氏(舞鶴市)、八木勝光氏(向日市)、荻野聖子氏(綾部市)、岩谷誠司氏(向日市)</p> <p><sup>しかい こんどうこういち</sup><br/> 司会:近藤幸一副会長</p> <p>京都では、昭和40～50年代から、自治体に正職員の手話通訳者を配置し、地域課題を解決するためにさまざまな施策を作り、多くの住民の共感を得ながら、地域の力を高めてきた歴史があります。これは全通研が求める手話通訳制度そのものです。また、世代交代をどのように行ってきたのか、引き継いだ次の世代は、どのような思いを持って仕事をしてきたのかを学びます。そして、ろうあ協会や全通研支部、手話サークルなど地域で共に支える仲間たちに送るエールを語っていただきます。</p> |
| IV                                                                   | <p>「手話この魅力あることばから学び合おう」</p> <p>講師 一般社団法人全国手話通訳問題研究会 情報広報部 研究誌担当</p> <p>全通研機関誌「手話通訳問題研究」で毎号掲載されている「手話この魅力あることば」。全国各地の聞こえない人の生い立ちや経験を、手話の語りから学んできました。その手話語りには、聞こえない人の魂が宿り、ときに激しい感情や溢れる思いを目の当たりにすることができます。</p> <p>情報広報部 研究誌担当は、そのような思いを読者に伝えるべく、毎号掲載してきました。講座では DVD を繰り返し見て、参加者と講演者の思いを共有しながら学びます。</p>                                                                                                                                                                 |

|                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>C 講座＜人権・福祉＞</b><br>人として生きる権利を奪われることが、どんなことなのかを一緒に考えていきましょう。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| I                                                              | <p>「日本で生活する外国人の現状と実践から学ぶ、現代社会の課題」</p> <p>講師 <small>しげの あぐり</small> 重野 亜久里 氏（NPO 法人多文化共生センターきょうと 理事長）</p> <p>同法人は、日本で暮らす外国人住民への支援として、外国人の医療分野の通訳派遣を実施しています。その実践を紹介いただき、日本で生活する外国人の現状と、きこえない人のおかれている現状と比較して、手話通訳に関わる課題を整理・解決するための新たな視点やヒントを見出します。</p>                                                                  |
| II                                                             | <p>「障がい者と女性の2つの差別と闘って」</p> <p>講師 <small>むらた けいこ</small> 村田 恵子 氏（京都頸髄損傷者連絡会会長・DPI 女性障害者ネットワーク）</p> <p>2015年、京都府差別解消条例では全国で初めて女性障がい者の複合差別問題を明記させました。「障がい者」と「女性」の2つの差別と向き合い、人としての尊厳を守るために、取り組んできた活動から、現代社会に残っているさまざまな課題について学びます。</p>                                                                                    |
| III                                                            | <p>「LGBTQ のこと、そして人権 弁護士夫婦のカラフルデイズ」</p> <p>講師 <small>みなみ かずゆき</small> 南 和行 氏（なんもり法律事務所 弁護士）</p> <p>同性カップルの弁護士夫婦として活躍している講師に、自分自身の体験や具体的な裁判事例などをもとに、LGBTQ のことや性の多様性について語っていただきます。</p> <p>言葉を知るだけでなく、人権の問題であると意識できる視点を学びます。</p>                                                                                         |
| IV                                                             | <p>「旧優生保護法の実態 ～過去の過ちを二度と繰り返さないために～」</p> <p>講師 <small>もり としゆき</small> 森 敏之 氏（京都新聞 記者）</p> <p>2024年7月3日、最高裁判所大法廷は、旧優生保護法は憲法違反だとする初めての判断を示し、「国は長期間にわたり障害がある人などを差別し、重大な犠牲を求める施策を実施してきた。責任は極めて重大だ」と指摘し、国に賠償を命じる判決が確定しました。</p> <p>この問題を長年取材してきた記者の目に、この歴史はどのように映ったのか。さまざまな現場や当事者の声を基に、この日本に最近まで存在した歴史の実態の一端を語っていただきます。</p> |



|                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>D 講座&lt;地域づくり&gt;</b><br>地域づくりとは、人とのつながりとは何かについて、多角的な取り組みから学びます。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| I                                                                   | <p>「 立場の違いに関係なく共に生きる“ひろば”づくりの現場から 」<br/>         講師 具 明德 氏（東九条マダン実行委員会）</p> <p>東九条(京都市南区)は、京都で最も多くの在日韓国・朝鮮人が住む地域で、「マダン」とは“ひろば”を意味します。少数者を無視し、差別し、排除する傾向がいまだに根強い日本社会にあって、東九条は日本人と韓国・朝鮮人が生活する中で、お互いの交流をはぐくんできた町です。サマーフォーラム会場にあたるこの地域での多文化共生のまつりや、東九条マダンの取り組みを学びます。</p>                                                   |
| II                                                                  | <p>「 地域で豊かに暮らすこと 」<br/>         講師 井上 公子 氏（認定 NPO 法人フォーラムひこばえ 理事長）・<br/>         成宮 範子 氏（企業組合もえぎ設計）</p> <p>「建築設計の仕事をしていると、個々の家のことだけでなく、暮らす地域のまちづくりや、そこで住み続けるための具体的なイメージなどについて相談を受けることがあります」と講師は語る。</p> <p>コーポラティブハウス、グループリビング、第 3 の居場所など要望はさまざまですが、今回は京都市右京区宇多野で地域の拠点づくりに取り組んでおられる「ひこばえ」の実践をご紹介します、地域での暮らしを再確認します。</p> |
| III                                                                 | <p>「 地域課題と住民活動 」<br/>         講師 志藤 修史 氏（大谷大学教授）</p> <p>地域の調査を通じて、その地域が抱える課題を明らかにする地域福祉を専門とされている立場から、地域課題の解決に向けたボランティア活動や住民自治活動など、住民同士のつながり、地域活動といった「地域づくり」について語っていただきます。また、全通研会員でもある講師から、今後の全通研へのエールをいただきます。</p>                                                                                                      |
| IV                                                                  | <p>「 自然災害から暮らしを守るために 」<br/>         講師 後藤 至功 氏（佛教大学専門職キャリアサポートセンター 講師）</p> <p>相次ぐ自然災害に多くの教訓を得てきましたが、災害の頻度や被害状況は深刻になるばかりです。障がいのある住民が日頃備えておくべき対策は何か、また万が一避難生活を余儀なくされた場合、安心して生活を送るために取り組むべきことなど、災害に強い地域づくりについて語っていただきます。</p>                                                                                              |



# 【分科会】

## 《第 1 分科会》 仲間づくりと学習

これまで、きこえない人や手話通訳者に関わるさまざまな課題の解決に向け、私たちは仲間とともに運動を展開してきました。

手話通訳や手話サークル活動、地域、職場できこえない人と関わる人たち、福祉、医療、教育の専門家、若い世代など多様な人たちに働きかけ、ともに運動する「仲間づくり」について考えましょう。

### ◆討論の柱◆

- ・学習会の目的とその役割、課題や改善策について考えよう
- ・手話サークルや地域班の仲間づくりについて考えよう

### 【過去のレポート(参考)】

- ・「大学手話サークルとのつながり、青年部との連携、共催企画開催まで」  
埼玉県手話通訳問題研究会 埼通研 N-Action
- ・「手話通訳者を増やしたい！現場で学ぶ「一緒に」企画の取り組み」全通研京都支部
- ・「手話活動と子育て意見交換会の開催」新潟県手話通訳問題研究会 N-Action にいがた
- ・「青年部と N-Action でつくる地域の若者手話サークル」福井県手話通訳問題研究会
- ・「大学学園祭における手話普及活動について」福島県手話通訳問題研究会

## 《第 2 分科会》 手話通訳者の仕事

手話通訳者の業務内容は、障害福祉分野のみならず、医療、教育、生活、司法、労働、社会参加など多岐にわたります。

近年、障害者差別解消法の施行、手話言語条例の制定、地域共生社会の取り組みなど、社会情勢は変化し、遠隔手話通訳や電話リレーサービスといったデジタル社会でのオンラインを活用した情報保障など、手話通訳業務の広がりがみられます。手話通訳業務ときこえない人への支援について情報交換し、「手話通訳の仕事」について議論を深めましょう。

### ◆討論の柱◆

- ・手話通訳者の業務を振り返り、専門性や健康問題を考えよう
- ・社会的要請に応える、きこえない人たちが望む(求める)手話通訳者像とは

### 【過去のレポート(参考)】

- ・「手話通訳者現任研修会の実態」公益社団法人札幌聴覚障害者協会
- ・「口コモ体操 DVD 作成から考えるみんなの健康について」北海道支部札幌班・みんなの健康を考える班
- ・「手話通訳者の健康について～産業リハビリテーションの視点から～」NPO 法人てん TO てん
- ・「芸術文化分野における手話通訳の需要の高まりについて」社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会
- ・「コロナ禍における登録手話通訳者の活動についてのアンケート」大阪手話通訳問題研究会
- ・「手話通訳あり方班の活動報告」全国手話通訳問題研究会東京支部
- ・「都道府県および政令指定都市における手話通訳者を対象にした研修に関する調査」京都府聴覚障害者協会

## 《第3分科会》 手話通訳制度・しくみづくり

きこえない人の社会参加には、各分野の情報保障やコミュニケーション保障が必要です。手話通訳制度が拡充し、医療、教育、労働、災害時などに合理的配慮がなされるよう、「手話通訳制度・しくみづくり」について考えましょう。

### ◆討論の柱◆

- ・市町村事業と都道府県事業の実施状況と問題点・課題について考えよう
- ・手話通訳者の養成、認定、設置、派遣の制度の課題と取り組みについて考えよう
- ・養成についての連携のあり方(大学等での手話通訳者の養成)について考えよう

### 【過去のレポート(参考)】

- ・「目指すべき手話通訳制度とは」 全通研鳥取支部
- ・「三重県意思疎通支援事業に関する実施状況調査の取り組み」 三重県聴障協／全通研三重支部
- ・「『埼玉聴覚障害者情報センター中長期計画検討委員会』の取り組みについて」 全通研埼玉支部
- ・「舞台手話通訳養成と実践～芸術文化における手話通訳～」 東京都聴覚障害者連盟
- ・「若年層の手話通訳者養成モデル事業(山口県立大学)の取組」 一般社団法人山口県ろうあ連盟

## 《第4分科会》 地域でいきいきと暮らすために

障害者差別解消法の施行や手話言語条例の制定が広がる中、きこえない人の暮らしはどう変わったのでしょうか。

子育て、就労、高齢化、防災など地域におけるきこえない人の課題を出し合い、すべての人がいきいきと暮らすことができる地域づくりについて考えましょう。

### ◆討論の柱◆

- ・きこえない人の子育て、就労、高齢化、健康、防災、その他、暮らしの中のさまざまな課題について考えよう
- ・すべての人が、地域でいきいきと暮らすための取り組みについて考えよう

### 【過去のレポート(参考)】

- ・「コロナ禍における島根県支部医療班の活動」 全国手話通訳問題研究会島根県支部
- ・「シェアハウス「結」のこれまでとこれから」 全通研長崎支部
- ・「島根県支部医療班の活動2023」 全国手話通訳問題研究会島根県支部

## 《第 5 分科会》 手話の拡がりを感じる社会に

障害者差別解消法施行、手話言語条例の拡がりなどで、きこえない人の社会参加が拡大する一方で、手話での日常会話や、手話通訳ができる人材が求められています。

「手話がきこえない人の生活で使われる言語であること」、「きこえない人のよりよい暮らしやろう運動についての理解」が望まれている手話奉仕員養成や手話通訳者養成も含め、手話を拡げるための取り組みには、どのような視点が必要なのかみんなで考えましょう。

### ◆討論の柱◆

- ・手話啓発の視点での手話講座、手話奉仕員養成講座、手話通訳者養成講座等のあり方について考えよう
- ・きこえない人の暮らしやろう運動について学び、身近に感じてもらうための講座づくりを考えよう
- ・指導方法、テキストの使い方などについて考えよう(地域・大学等の養成も含む)

### 【過去のレポート(参考)】

- ・「どうすれば手話が上達するのか～読み取り学習の方法について～」大阪手話通訳問題研究会
- ・「西都手話サークルにおける手話学習者拡大の取り組み ～若者の手話学習者拡大と中学生以下の手話学習者～」全国手話通訳問題研究会宮崎支部
- ・「若年層の手話通訳者養成モデル事業(厚生労働省委託事業)」京都手話通訳問題研究会
- ・「どうすれば早く手話が上達するのか～手話の口形・口型について～」大阪手話通訳問題研究会

## 《第 6 分科会》 身近な課題を社会の課題に

全国の仲間の運動が、きこえない人や手話通訳者に関わるさまざまな課題を解決する原動力となってきました。

全国の自治体で制定が進んできた手話言語条例や情報コミュニケーション条例、差別解消に関わる条例などの取り組みと課題について考えましょう。

また、現在地域福祉計画、障害者計画など、市民、県民を巻き込んでの取り組みと制度、しくみについて考えましょう。

### ◆討論の柱◆

- ・各地の制度改革や政策提言の運動と課題について考えよう
- ・手話言語条例や情報コミュニケーション条例等の取り組みについて考えよう
- ・地域課題の解決に向けて他団体と連携する取り組みについて考えよう
- ・地域福祉計画、障害者計画等、社会的合意に向けての取り組みについて考えよう
- ・差別解消、合理的配慮の取り組みについて考えよう

### 【過去のレポート(参考)】

- ・「防災に関する九州ブロックでの取り組み」全通研九州ブロック
- ・「防災プロジェクトチームの取り組みについて」全通研埼玉支部
- ・「まさか、まさかの大阪北部地震一ブロックセンターの役割」全通研大阪支部
- ・「コミュニケーション条例制定後の地域活動の成果」愛知県手話通訳問題研究会東三河班豊橋市・豊橋市聴覚障害者協会